

様式 3

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	国語科
-----	-----

小 09 練馬区立早宮小学校

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第 1 学年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を正しく読み取ることに課題が見られる。 文章の中で、大事な言葉や文を見付けながら読むことができるように、指導を工夫したい。 他の教科・領域でも読む力を身に付けさせる指導が必要である。 新出文字では、促音や濁音などの定着を促すために練習方法を工夫する必要がある。 丁寧に字を書くことに課題が見られる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読では、リズムに合わせる、人数を変える、役割読みをさせるなど様々な読み方を取り入れる。 発問を工夫し、大事な言葉や文を押さえられるようにする。 動作化や役割演技など、様々な方法で内容をとらえ、場面の様子を想像できるようにする。 促音や濁音などの定着を図るために、使う必要のある課題を提示したり、文を書く際に意識する声かけをしたりする。 文字指導においては、指書き⇒なぞり書き⇒写し書きの習慣を徹底し、着実な習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本の読み聞かせなど読書に親しめる時間を多くもつようにする。 文字の読み書きを定着させるため、字形や書き順も含め、反復練習を取り入れる。 定期的に文字の理解や定着の度合いを評価し、個々の到達度を確認しながら指導していく。
第 2 学年	<ul style="list-style-type: none"> 読書量、読書内容に個人差がある。文章を読み取る力を高めたい。 文章を読むときに、言葉の意味、順序や大事な言葉や文を捉えながら読む力を高めたい。 自分の考えを順序立てて話したり書いたりすることに課題が見られる。 自分の考えを話したり、書いたりするときに、自信をもって取り組めるようにしたい。 文字を丁寧に書けない児童がいる。筆順や丁寧に書く習慣を身に付けさせ、文を書く際に既習の漢字を使えるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習を継続して行い、文章を正しく読んで内容を理解する力を伸ばす。図書の時間に、ブックトークの時間を設けるなど、読書への関心をもたせる。 言葉の意味を理解する手だてとして、動作化や、児童の経験と結び付けさせる。 板書に話す順序や内容、聞くポイントなどを提示し、視覚的に分かりやすくする。ペアやグループ、全体で感想や考えを交流する機会を設ける。 書く学習では、モデル文を見ながら、順序や簡単な構成を意識して書けるようにする。読み取った情報と自分の経験を結び付け、書くことができるようなテーマを設ける。 話したり、書いたりする際に、児童の考えを引き出せるよう個別指導を行う。 漢字練習の仕方を身に付けるとともに、文を書く際に意識して使うように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に読書ができるような環境を整え、本に親しみながら読解力を高める。国語の単元に合わせた本が読めるよう、読書環境を整える。 書く活動やスピーチでは、「はじめ、中、終わり」を意識して話すよう指導する。 日常的に文を書く活動を積み上げ、表現力の向上を目指す。
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読むときに、言葉の意味を正確に捉え、叙述に即して読み取り、分かったことを基に感想や考えがもてるようにしたい。 書く力には個人差があり、全体的に力を高めていくとともに、個別指導が必要である。 漢字や文字を書く能力に差が出てきている。 既習漢字を使わずに、平仮名で書く児童が多く、既習漢字を適切に活用して書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成や大体の内容を捉えるなど、ねらいを意識して読み取れるよう指導する。 文章を読む際には、段落を意識し、サイドラインを引くなど、叙述に即して読み取り、そこから自分の感想や考えをもてるように指導する。 言葉の意味を正確に理解するために、国語辞典の使い方を身に付け、分からない言葉があれば、すすんで調べる習慣を身に付けさせる。 書く学習では、構成を意識しながら、書きたい内容の中心を明確にできるよう、組み立て表などを用いて取り組ませる。 新出漢字の学習や振り返りテストを活用して漢字が身に付くよう、繰り返し指導する。 文章を書く上で分からない漢字は調べて書くようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読み」の力を高めるために、授業だけでなく家庭学習でも音読を取り入れる。 全文を横断的に、読み取っていきけるように発問の仕方を工夫する。 読書を通して、様々なジャンルの本に出合えるようにする。 「書く活動」では、モデル文や文章構成を提示したり、自分の考えや気持ちを書く機会を設定したりしながら、作文に対する抵抗感をなくすよう指導を工夫する。 日常的に漢字を使って文章を書かせるようにする。 分からない言葉や漢字については国語辞典やタブレットなどを使い調べさせる。日常的に国語辞典を使わせる。 本の探検ラリーで平和台図書館と連携する。

第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童によって読書量に差があり、内容の理解度に個人差がある。 ・漢字や音読などは、全体で繰り返し学習に取り組みながら、並行して個別指導をしていく必要がある。 ・話す力、書く力をはじめとした表現力では、語彙の活用で課題が見られる。 ・既習事項の言葉を書けるようにしたい。(漢字、ひらがな、カタカナ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を叙述に即して正確に読み取っていくよう指導する。 ・物語文を読む際には、心情の変化を捉え、その要因となる出来事に気付いたり、登場人物の心情を想像したりする活動を丁寧に行う。 ・音読の学習の際には、読む力を高めるために、並行読書を行っていく。 ・日常的に辞書を引く体験を積み重ねることで、疑問をそのままにせず、自発的に調べる学習習慣の定着を図っていく。 ・お互いに書いたものを読み合う活動を取り入れ、誤りに自ら気付く視点と客観的な推敲意識を養っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと、聞くことの活動では、スピーチなどの活動に継続的に取り組ませ、自分の考えや気持ちを表現する力を高める。さらに、人のスピーチに対して自分が感じたことや考えたことをその場で返すようにする。 ・毎週、短時間で書く活動を行い、書くことを習慣化させる。その際、文章を書くスキルを高めていく。(助詞や接続語など) ・説明的文章の読解において、全体で資料から何が読み取れるか、本文のどの文章と関連性があるかについての気付きを出し合わせ、多角的な視点を養う。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えようとしているのかを読み取り、短い文章や言葉でまとめることが苦手。また、主題や意図を意識して読み取ること慣れさせていく必要がある。 ・基本的な言葉の使い方や語彙を再確認し、定着させる指導の工夫が必要である。 ・読み手を意識して文章の構成を工夫しながら書くことに課題が見られる。 ・意見や感想を伝え合ったり、自分の考えを捉え直したりする機会を設ける必要がある。 ・文章の中で漢字を使う意識をもたせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や言葉に着目して読む力を向上させる。その際、段落を意識し、大まかな文章構成や型が理解できるようにする。また、サイドラインを引くなどの基本的な手法を身に付けさせる。 ・文章の内容を短くまとめる活動を大切に。内容を丁寧に読み取らせ、中心的な情報と付加的な情報に分けさせたり、取り出させたりするなどの指導の充実を図る。 ・文章を書く過程を理解する指導を行い、事実と感想や意見を区別して文章化できるようにする。 ・学級の実態に応じて学習形態を柔軟に変更し、児童が考えの形成中から形成後にかけて意見交流しやすい授業展開を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した漢字や言葉を使う場面では、辞書やドリルなどの教材の活用を意識させる。 ・文章を書く学習では、実の場を意識して、目的意識、相手意識をもたせるような学習指導計画を立てる。また、モデル文の提示や文章構成指導を重点とし、書く活動を充実させる。 ・朝の作文の内容を工夫する。読みと作文の学習を関連付ける。資料を用いたり立場を明らかにしたりしながら書く内容の多様化を図る。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストでの定着率は上がってきた。日常の書く活動の中でも、既習漢字を文章の中で活用することに課題が見られる。 ・文章を書くことに抵抗を感じている児童がおり、書き終えたという実感をもたせる必要がある。 ・話すときの表現と書くときの表現の違いが分かっていない。書くときにハードルを感じる児童が多い。 ・読書が好きではない、得意ではない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリル学習だけでなく、違う場面での活用を増やす。 ・文章の構成における基本的な型を身に付けさせるとともに、キーワードで構成を大まかに捉えるように習慣付ける。 ・スモールステップによる学習過程を設定し、文章を書くことへの抵抗感の軽減を図る。文章の内容を短くまとめる、小見出しを付けて構成を考えるなどの理解を深める活動を大切にする。 ・読書時間を確保する。読書活動の環境を整える。活動時間やジャンルなどを教員が示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIドリルを活用して、別の場面での活用を図る。 ・書くことの学習では、朝の書く活動の時間を確保する。 ・オクリンクプラスを用いて各単元の系統的な学習のモデルを示せるようにする。 ・朝読書や活動の合間の時間、読書週間で時間を確保する。